



北海道・旅の心得



▼ 本冊子のPDFが無料でダウンロードできます ▼

<http://www.visit-hokkaido.jp/t/company/data/index2.html#etiquette>

2016年1月 増補改訂版発行

発行 北海道 / (公社) 北海道観光振興機構

お問合せ (公社) 北海道観光振興機構
札幌市 中央区北3条西7丁目1-1 緑苑ビル1階
Tel.011-231-6736 Fax. 011-232-5064

企画・制作 (株) ジーン

日本人を知れば、旅はもっともっと楽しめる!

北海道・旅の心得

旅行が楽しくなる
5つのポイント



日本人の、心に触れて、

旅を楽しむ。



ようこそ、おもてなし大国・北海道へ！

ようこそ、北海道へ！北海道は初めてという方もリピーターの方たちも、私達は心を込めて「おもてなし」させていただきます。旅の楽しみ方は人それぞれ。でも、その土地に住む人々の考え方や習慣、気質を理解することで、旅はもっともっと楽しくなります。私たちはこの小冊子「北海道・旅の心得」を通じて、皆様が少しでも日本を理解し、日本人の心に触れて、多くの喜びや感動を体験していただくことを心から願っています。



POINT

1 控えめな日本人

よく日本人は「控えめ」で「大人しい」性格と言われますが、それは日本人が大切にしている「和の精神」から来ています。島国日本では、昔から周囲との協調性を大切にし、自分を押し殺してでも相手や周りの人に合わせようと努力します。また、他人と違う言動で周りから笑われることを恥ずかしいことと考え、周囲の状況を伺いながら行動する習慣が身についているのです。

POINT



① 声をひそめて会話する？

日本人はレストランや地下鉄など公共の場所では特に大人しく静かに見えます。元来、アメリカ人や中国人に比べると、日本人は日本語という抑揚の少ない言語を話す上に、周囲に気を使って小さな声で話す傾向があります。ですから、隣りで大声で話されたりすると、日本人はびっくりします。少し声を落として話すくらいが日本ではちょうどよいかもしれません。

静かな店内だね



② ゲップも控えめに

また、周囲への迷惑を考えて、ゲップやオナラなどの生理現象もなるべくしない、あるいは極力控えめに行うのが日本人です。もちろん生理的なものなので出てしまうことはありますが、控えめに出すよう心がけましょう。



POINT 2 和の心

狭い島国で共存するための知恵として、日本人は昔から和の精神を何よりも大切に、個人よりも社会や集団に重きを置いてきました。そして、集団行動で一番大切ながルールやマナーを守ることです。日本人が遵法精神に富んでいるのはそのためです。旅行の際には「郷に入れば郷に従え」という中国の教えを守り、旅先のルールや習慣を尊重するのもしょうした背景があるからかもしれません。



POINT

1 みんなの時間を守ろう

集団行動で日本人が特にうろさいのが時間です。たとえばバスでツアー中に、ツアー客が買い物に夢中になったり、勝手に離団して集合時間に遅れると、運転手はパニックになります。時間に正確で、何事も計画通りに物事を進める日本人にとって、その後のスケジュールが大幅に狂うことは我慢できないことなのです。



2 ゴミの捨て方

清潔好きの日本人は、基本的に「自分が出したゴミは自分で片付ける」習慣があります。ですから、ゴミは床や道路に捨てないで、燃えるゴミと燃えないゴミなど、ゴミの種類を分別してからゴミ箱に捨てましょう。使用済みの紙オムツなどは公共のトイレにおむつ専用のゴミ箱があります。ゴミ箱がない場合は自宅に持ち帰るようにしましょう。



3 長い行列も大人しく

規律を守り、他人に迷惑をかけたくないという気持ちが強い日本人は、長い行列でもおとなしくきちんと並びます。それは列への割り込みが違法行為だからという理由以前に、日本ではマナーや常識として定着しているのです。



4 私有地への侵入

観光地でCMのロケ地を撮影しようと歩いていたら、知らない間に畑などの私有地に侵入していた、というケースがあります。畑を踏み荒らすと作物が枯れたり、せっかくの美しい景色を損ねるなどその観光地全体に迷惑をかけることになるので、私有地へ侵入には注意しましょう。



持ち帰りOKなのは消耗品・使い捨て品だけ

宿泊施設の備品の中でも、アメニティグッズの石鹸、シャンプー、カミソリなどは持ち帰っても大丈夫です。しかしアメニティグッズ(消耗品・使い捨て品)以外の備品、たとえば食器や湯沸かし器、ドライヤーなどを持ち帰ると窃盗罪に当たるのでご注意ください。



POINT 3 日本人の食事

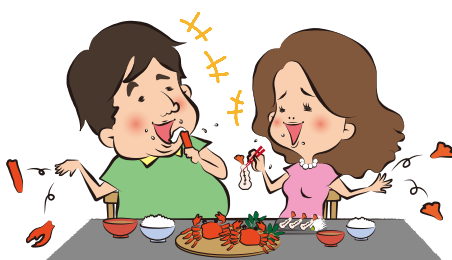
昔の日本ではテーブルを使わず、畳の上に直接正座して低いお膳を使って食事をする習慣があったことから、茶碗や味噌汁の椀を手を持って食べるという独特の食事作法があります。また、箸の文化は、顔を皿に近づけるのではなく、箸を使って皿から口元に優雅に料理を運ぶことが作法とされています。この他にもいくつか食事のマナーを見てみましょう。



POINT

1 テーブルはきれいに

日本の伝統的な食事作法には、基本的に食べる時に物音を立てない、咀嚼中は会話をしない、などがあります。また、もともとテーブル文化のなかった日本では、テーブルの上や床に食べ物のカス、骨などが散乱していると、畳の上を汚されたようで気持ち悪く感じてしまうのです。



2 食べ物は残さない

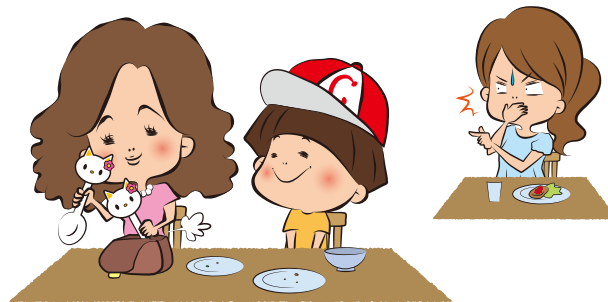
日本では仏教の影響で「もったいない」の精神が色濃くあり、出してくれた食べ物をすべて残さずきれいに食べるのが礼儀とされています。食べ物が皿に残っていると「美味しかったのかな」と接待した側はがっかりします。



3 持ち込み／持ち帰りは不可



飲食店に飲み物や食べ物を持ち込むと、日本では罰金の対象となる場合があるので気を付けてください。また、ホテルのバイキングで旅行者が水筒に飲み物を入れたり、タッパにご飯やおかずを詰めたり、スプーンなどの備品を持ち帰ると日本人の印象を損ねることになります。



ホテルは部屋着で出歩かない

日本の宿泊施設には、部屋に備え付けの部屋着／浴衣・スリッパを着用したまま室外を出歩いてもよい施設とダメな施設があります。和風旅館など一部の施設は大丈夫ですが、洋風ホテルの多くは「ゆかた、バスローブ、スリッパなどで廊下等、室外にお出にならないでください」と利用規約で謳われているのでご注意ください。



POINT 4 公衆浴場のマナー

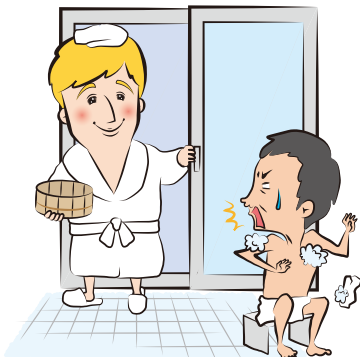
公衆浴場で大勢の他人と全裸で入浴する—これは世界的にも珍しい日本独自の入浴スタイルです。日本人はお風呂が大好きで、好きな言葉の中にも「裸のつきあい」という言葉があります。風呂場で裸になれば、職業や地位を超えて一人の人間として平等に語り合えるという意味です。また同時に潔癖症でもある日本人は、お湯の清潔さにも気を使い、「欧米人は体をきれいにするために風呂に入るけど、日本人は体をきれいにしてから風呂に入る」と言われるほどです。



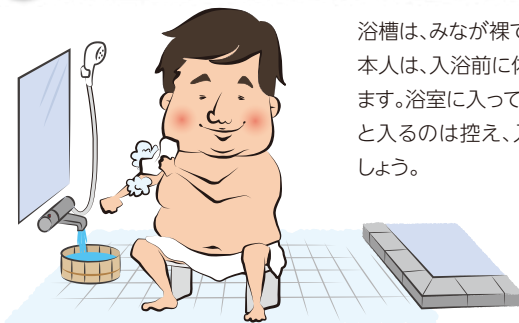
POINT

1 裸のつきあい

浴室には、全裸でフェイスタオルを持って入室しましょう。他に浴室に持ち込めるのは、個人所有のシャンプーや石鹸などです。水着やバスローブを着用したり、スリッパ履きで浴室に入ると、日本人は驚きます。あなたも日本の「裸のつきあい」をぜひ経験してみてください。



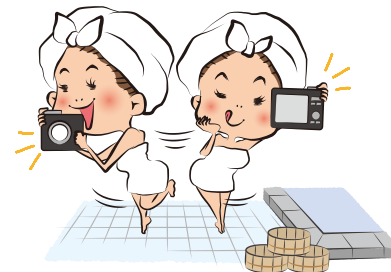
2 入浴前に体を洗いましょう。



浴槽は、みなが裸で使う共有の場です。清潔好きな日本人は、入浴前に体をきれいにしてから湯船に浸かります。浴室に入っすぐ浴槽に直行して湯船にドボン! と入るのは控え、入浴前に必ず体を洗うようにしましょう。

3 浴室でも大人しい日本人

浴室で大声をあげたり、浴槽で泳いだり、写真撮影や飲食行為をすると日本人がびっくりするので控えて下さい。また、洗い湯では周囲の人にシャワーをかけないように注意して、使い終わった洗面器や椅子は、お湯で流して元の場所に戻しておきましょう。



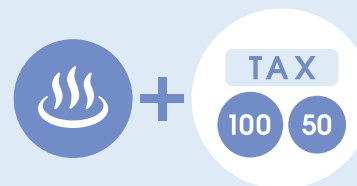
4 脱衣所に戻る前に水気を取りましょう。

風呂場から上がる時に、そのまま脱衣所に行くと、脱衣所の床が水浸しになります。他のお客様がすべって転倒する危険性もあるので、お風呂から上がる前に体の水気を取ってから脱衣所に戻りましょう。



入湯税について

日本では、温泉や鉱泉の入湯客に地方税が課されます。温泉を利用すると、宿泊、日帰りに関わらず、1人1日につき、宿泊で150円程度、日帰りで50円～100円程度の課税となります。宿泊の場合、基本的に温泉を利用しなくても入湯税はかかります。



POINT 5 習慣・文化の違い

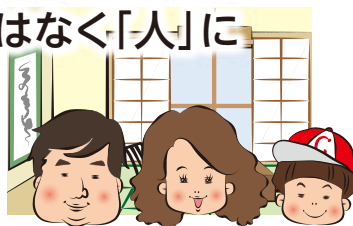
海外旅行をすると、歴史や習慣文化の違いで、びっくりするような場面に出くわすことがあります。たとえば、日本の宿泊施設では「部屋」に対してではなく「人」に対して料金がかかります。これは「泊食分離」という考え方の諸外国と違い、日本では昔から個人旅行が盛んで「1泊2食付き」(泊まる事と食べる事を1セットとして考える)の伝統があるからです。ここではそうした社会システムの違いについて見てみましょう。



POINT

1 宿泊料金は「部屋」ではなく「人」に

というわけで、日本の宿泊施設では基本的に「人」に対して宿泊料金がかかります。1部屋に3人が宿泊する場合は3人分の料金を払う必要があります。朝・夕食付きもすべて人数分です。チェックアウト時に「3倍も取られてる!」と慌てないようにしてください。



宿泊費 → 1万円 + 1万円 + 7000円
= 合計 2万7000円

2 信頼できる日本製品

日本では、商品を購入後、支払いを済ませて初めてパッケージを開けることができます。日本の高い技術力と商品管理の下で製造された商品は品質が均等でバラ付きがないため、中身を確認しなくても安心してご購入いただけます。購入前に商品を開けると「万引き」とみなされることもあるので注意して下さい。



3 傷害保険について

観光バスでツアー中、観光地で転んでケガをして病院へ行くことになりました。この場合、ツアー自体で傷害保険に入っていなければ保険は適用されません。また、乗降中を除き、バス車外で転んだ怪我などの場合、バス会社は賠償する責任を負いません。母国での保険加入の有無をしっかりと確認してください。



4 トイレのマナー

きれい好きの日本人は常にトイレを清潔に使います。日本のトイレトペーパーは水溶性で水に溶け、排水管は太くて水压も高いので、使用済みの紙は便器の中に捨てて、排泄物と一緒に流してください。トイレを排泄物で汚した時は、次の人のことを考えてきれいに掃除してからトイレを出しましょう。



ウォッシュレットの使い方

ウォッシュレットの表示板には「おしり洗浄」「ビデ洗浄」「脱臭」「暖房」など様々な機能が付いています。ただ、ウォッシュレットの多くは「水を流す」機能がついていません。その際は「え?! どうやって水を流すの?」とパニックにならず、落ち着いて周囲をよく見てください。トイレのタンク横に手動レバーか、周囲の壁に水洗ボタンが必ず付いているはずですよ。

